

論文審査の結果の要旨

報告番号	乙 第 3130 号	氏 名	木村 友之
論文審査担当者	主査 末木 博彦 教授		
	副査 小林 一女 教授		
	副査 泉崎 雅彦 教授		
<p>アナフィラキシーは全ての医療従事者が遭遇する可能性がある救急の病態であり、その知識や治療法はコメディカルにも普及していることが望ましい。しかし、アナフィラキシーに関する知識や診療スキルは、全ての医療従事者が有しているとは言い難く、それについて検討した研究報告にも乏しいのが現状である。今回 2018 年に 2010 年と同一の施設に勤務する看護師を対象にアナフィラキシーの基本的事項に関する質問を行い、2010 年に行った同一のアンケート結果と比較し 8 年間でアナフィラキシーの知識の習熟度の変化を調査した。アナフィラキシーショックという病名・定義に関する認知度、プレホスピタルケアとしてのアドレナリン自己注射薬の認知度、医療機関での発症例における第一選択薬としてのアドレナリンの重要性に関する認識が、8 年間で向上していた。定期的な講習会などの介入がなかったのにも関わらず 8 年間で知識の習熟度が改善した背景としては、アナフィラキシーガイドラインの制定やエピペン®の保険収載を皮切りに医学的関心の上昇や看護教育の向上があったことが示唆された。</p> <p>本論文は本学大学院学位論文(博士)審査基準を満たしており、学位論文に値すると判断した。</p> <p>論文題名：看護師を対象としたアナフィラキシーショックに関するアンケート調査—2010 年から 2018 年の推移—</p> <p>掲載雑誌名：日本職業・環境アレルギー学会雑誌 27 巻 2 号 33-42 頁 2020 年</p>			

(主査が記載)